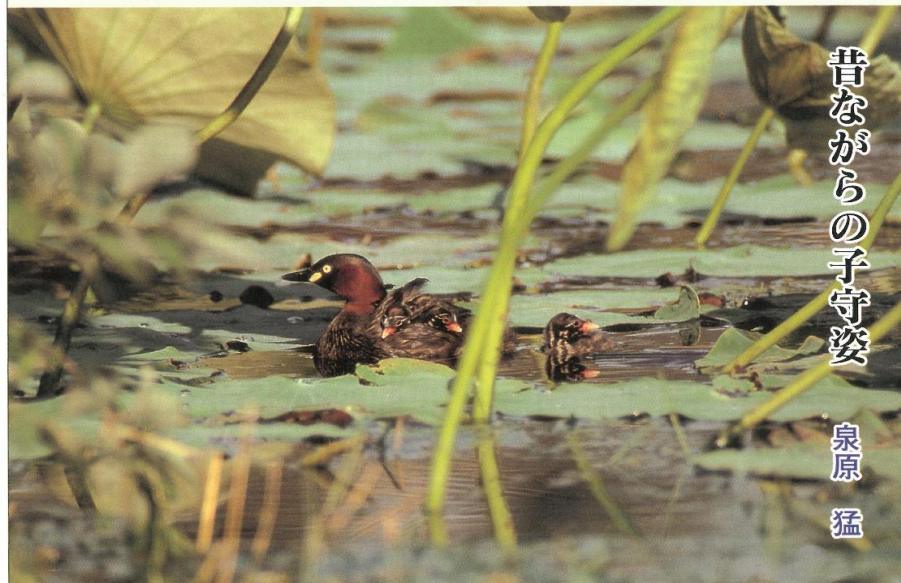


Photo Column

フォトコラム・自然観察



昔ながらの子守姿

泉原 猛

「カイツブリ」

農業用溜め池や河川の緩やかな流れの部分には、たいいてい一つがい以上のカイツブリが住んでいる。キジバトよりも小さい体長ながら、春から夏の繁殖期には「ケレレレ……」と、雌雄がけたたましく鳴き交わす。

古名を鴈ハシといい、「鴈の浮巢」「鴈の海」（琵琶湖の別称）などの言葉がある。またその脂肪を刀の錆び止めに利用したという。

夏季は、頭から頸が濃赤褐色、冬季は淡褐色となり別種のように見えることがある。餌をとるためによく潜る。

溜め池管理が徹底し過ぎて、葦とか睡蓮、水草などが失われると、彼らは子育てができない。

一見、荒れ果てたかに見える池の片隅、親鳥の背中に乗っかり安心しきっている縞々模様のヒナたちを見ていると、ついこの間まで存在していた人間の子守姿を思い出す。

いずはら・たけし 一九三五年、東宇和郡城川町生まれ。県アミニティアドバイザ、環境カウンセラー、「原点」同人。インターネットの利用は、月五時間以内が目標。IT革命とかで人間はまた忙しくなり、ますます自然と接触する機会を失うのであろうか。
(写真は、一九八七年六月一日、松山市鷹子町にて)

文化愛媛 No.46 ￥500(税込)
発行／平成13年(2001)3月1日
発行所／愛媛県松山市一番町4-4-2
財団法人愛媛県文化振興財団